

矢崎総業から申請された流通業務総合効率化計画の概要 (別紙2)

多頻度小口で納入先に配送している部品メーカーが、企業の壁を超えた共同配送、情報技術の活用、流通加工の実現、モーダルシフト、ハイブリッド車の導入等により、高積載率で更なるジャストインタイムでの輸送を実現し、物流の効率化及び環境負荷の低減を図る。

(荷主) 矢崎総業

(物流事業者) 翔運輸

- ・ 矢崎総業が物流拠点を整備し、部品メーカーの壁を超えた共同配送を実現
- ・ 積載率が低下することが多いジャストインタイムでの配送について、共同配送により積載率を向上
- ・ 整備した物流拠点から納入先への更なるジャストインタイムでの配送に対応すべく、ハイブリッド車を導入
- ・ その他、モーダルシフトや流通加工の実現などを実施

大幅な物流の効率化とともに、CO2排出量にして約24%削減を図り、環境負荷の低減を実現

